

平成27年度第1回鱒ヶ崎三本松古墳調査指導委員会会議録

1 開催日時

平成27年6月27日(土)14時00分～16時00分

2 場 所

流山市思井福社会館 和室

3 議 題

- (1) 各委員からの所見
- (2) 三本松古墳調査に向けての経過
- (3) 古塚碑基礎確認状況報告
- (4) 古塚碑の移設作業報告
- (5) 古墳周辺部トレンチ確認調査報告
- (6) 古墳調査前状況空撮
- (7) 周溝トレンチ調査予定図
- (8) 鱒ヶ崎三本松古墳現地視察

4 出席委員

下津谷委員、滝沢委員、古谷委員、渡辺委員、

5 欠席委員

松井委員

6 事務局員

増崎学芸係長、北澤主任学芸員

7 会議内容

事務局から平成27年3月に実施した会議以降の経過について、配布資料にもとにパワーポイントを使いながら説明を行い、各委員からの質問や確認事項、指摘事項についての意見交換を行った。

(1) 石碑についての意見・指摘事項

<報告事項>

6月18・22・23日に石碑移転作業を実施・完了した。移転作業は、市内の石材店（小杉石材店）に依頼し、破損なく保存処理の作業場所へ移動した。今後、保存処理作業に移る。有限会社新成田総合社が行う。

移設作業に伴い、石碑基部がほとんどないことが明らかとなった。碑を支えていた基礎部分にはモルタルが流し込まれていた。この検出状況より、現在の基礎は、石碑が作られた当初のものではないことが、考えられる。資料3-3右上の写真では、基部にモルタルが流し込まれており、昭和38年以前から現在の基礎状況であったことが確認できる。

基礎に使われた礎石の内、稲荷大明神（文政8年銘）と奉納と刻まれた石が転用されていたことが確認された。

<意見・指摘事項>

石碑の基礎部分（掘り方）の調査を進めていただきたい。（建立当時の基礎を発見できる可能性も含めて）

石碑基部がほとんどないという事実が判明したことから、現位置に戻す際の方法を検討しなければならない。

(2) 古墳調査についての報告及び意見・指摘事項

<報告事項>

先行調査として、T1・T2（資料4）のトレンチを設定し、周溝の確認を行った。結果としては、T1には、周溝と考えられるプランを確認できた。一方、T2では、前方部裾付近で中世の遺構が検出され、中世以降の造成により周溝が削平された可能性が高いと判断した。

T1・2の調査結果及び指導委員からの指摘事項に基づいて、トレンチを配置（資料6）し、周溝及び墳丘部の確認を開始したいと考えている。

ドローンでの空撮は、市民の方をお願いしている。今後、調査の進捗にあわせて計6回ほど予定している。

<意見・指摘事項>

周溝を把握し、墳形をおさえることが第1である。そのため、トレンチの数を増やすこと。

柏市八幡山古墳に墳形が似ている。(実測図は柏市史に掲載)

石室の運搬路の存在も考慮すること。

東側の崖から周溝や周堤帯を確認することはできないか。

主軸と想定しているトレンチは、周溝及び墳形をおさえてから調査をするほうがよい。

<現地確認での指摘事項>

T1の遺構は周溝でよいと思われる。後円部北側の傾斜が急であること、周溝と墳丘がやや離れていることを考えると墳丘が削平されていることも考えられる。

墳丘北側は、本来の形状をとどめていると思われる。前方部に周溝確認のトレンチを増やす。

後円部南側で原形をとどめている部分にトレンチを設定する。

南側くびれ部にもトレンチを設定し、主体部への墓道を捉える。

各委員からの意見に基づき別紙1のとおりトレンチを設定し、調査を開始する。

次回会議は、周溝を確認して墳形を抑えられた段階で実施する。8月上旬頃の予定。